

記者 まずは今回の入賞おめでとうございます。率直な感想をお願いします。

まん蔵 ほんまでっか・・・というのが最初の感想ですわ。まさか第2位に選ばれるなんてねえ。トロフィーをもろてから漸く実感がわいてきましたわ。

記者 ご自身のどういったところが、今回の入賞につながったと思いますか？

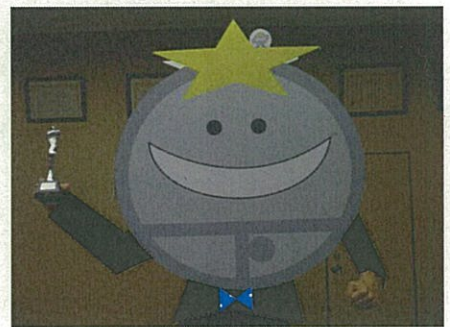
まん蔵 大津市内ですらたいした広報活動もしてへんのに、全国なんてとんでもない。総選挙は東京であつたんですけど、票を入れてくれはった人のほとんどが、会場のポスターで、初めて僕のこと知ったんとちゃうかな。そういうことでは、見た目のインパクトやと思いますわ。

記者 具体的にはどういうことでしょうか？

まん蔵 ほかのマスコットさんらは、綺麗にしてはって華やかな写真を飾ってはったんですわ。そんななかで、今日は僕がタキシードできめてますけどね、会場にはいつもの作業着姿の写真を飾ってもらったんですわ。狙ったやろてか？ちゃうちゃう。忙しくて、広報用の写真を撮りに行く時間もなかったんですわ、ほんまに。

記者 ということは、マスコットとして大津の下水道事業をPRするだけでなく、作業現場なんかにも行かれるんですか？

トロフィーを手に語るまん蔵



まん蔵 そんなん当たり前ですわ。下水道のこと分かんかったら、お客さんにも上手く説明できまへんやろ。上手いより、必死のパッチさが伝わらへん。

例えばね、台所から出る汚れた水が溜まる分離槽というのが、各お宅の敷地内にあるんですけど、これはお客さんに掃除してもらわなアカん。天ぷら油の残りや野菜くずをそのまま流すと、この分離槽が臭くなるし、管も詰まってしまう。そんな汚い槽を掃除すんの誰でもいいやですやろ。それに、油分とかを下水道に流すと、水を綺麗にするのも大変なんや。自分のためにも、琵琶湖のためにも、ちょっとした気遣いやな。

記者 なるほど、私も我が家の分離ますを一度、開けてみます。ところで、まん蔵さんが、いつも持っ

おられるハンマーも現場で使われるのですか？

まん蔵 よく聞いてくれました！このハンマーはマンホールの鉄蓋を開けるときに使ってますわ。マンホールは車道にあることが多いから、どうしても砂が candeshi もて、いざ開けようと思ってもなかなか開かへんのですわ。そんな時、このハンマーで叩いて、砂を飛ばして蓋を開ける、これがないと仕事になりませんわ。おかげで、腰痛がひどなってます・・・

記者 大変なお仕事ですね。それでは最後に、大津市下水道マスコットとして、これからの抱負をお願いします。

まん蔵 マスコットいうても、今まで大した活動もしてへんかったけど、これからはもうちょっと下水道事業のPRを頑張っかなと思います。下水道は地面の下にもぐってて、見えまへんですやろ。お客さんと見えへん世界を繋ぐのが、僕の役目やと思います。今は生活を支える当たり前のもんやけど、当たり前になつてしまった分、見えにくくなつてしまつたいうか気付かんようになってしまいたい。うか・・・まあ、腰痛がひどならん程度に頑張りますわ。

記者 これからの活躍を楽しみにしています。ありがとうございました。